

【いつか妻に見せたいところ】

奈良を都とした時代の山陽道は、西宮市で今の国道2号線と交差していました。京都からは西国街道と呼ばれた道です。『万葉集』巻三の「雑歌」(公の席で詠まれた歌)部には、
「高市連黒人が歌二首」と題して、

我妹子に猪名野は見せつ名次山角の松原いつか示さむ

吾妹兒二 猪名野者令見都 名次山 角松原 何時可將示 二七九番歌

との歌が記されています。「我が妻に猪名野は見せた、名次山や角の松原は(ここだよ)いつ見せられるのだろうか」と、出張に妻を同伴したことを詠んだとても珍しい歌です。もう一首は妻の歌と合わせて改めてご紹介しますが、今の神戸市長田区に「真野の榛原二八〇番歌」を詠んでいます。そこまで出かけているのに、道中で「名次山」や「角の松原」を見せることができなかつたようです。なぜでしょう、この謎解きには、地図を片手にフィールドワークを試みることをお勧めします。スタートは、山陽道に近いと思われるJR西宮駅の北側からです。まずはそこで地図を広げて猪名川を渡り山陽道を旅する黒人一行を想像してみてください。そこから地名を残す名次神社(Google MAP)を訪ねたり、「角の松原」をたよりに駅の南にまわって松原天満宮(Google MAP)や津門神社(Google MAP)等を訪ねてみると、よく知られてはいたのですが、道筋から少し離れている



ので、足をのばすことができなかつた可能性がありそうです。当時の旅はすべてが公務でした。道からはずれてあちらこちらへと観光することが難しいので、訪ねてみたい思いを込めて詠まれています。

【『City Life』 2019年.10月号阪神：神戸版掲載】

提供：『万葉考房』(ホームページへ)